

(1) 実習で苦勞したこと、失敗したことは何か、それをどうやって乗り切ったか
苦勞したことは、なにより授業です。

子どもたちが疑問をもったり、考えたり、悩んだりするような授業をしたい、全員が理解できるような授業をしたいなど、さまざまな思いで指導案を作成しました。とても悩んで授業案を作成しても、授業では失敗を多くしてしまいます。私が授業した中で成功した授業は一回もありませんでした。

たった 3 週間で完璧に授業できる人はいません。私は 3 週間の実習の中で大切なのは、「子どもたちの実態を知ること」だと思います。子どもたちは私たちが思っているほど、知らないことが多かったり、できないことが多かったり、とても時間がかかったりします。またその逆もあります。毎日子どもたちと関わっていても、実際に授業をすることで初めて見えてくる部分が多くあります。そのことを知るだけでも実習として意味があるのではないかと思います。

(2) 実習に行って初めて分かったこと、嬉しかった出来事は何か

3 年生はまだまだとても純粋なところ です。附属の子どもたちはだいたい 3 つほど習い事をしていて、1 歳のころから塾に行っているという子も何人かいました。だからと言って、大人びていることはなく、どの学校でも子どもの本質は変わらないと担任の先生もおっしゃっていました。私は子どもたちに会うまで、少し身構えていましたがその必要はありませんでした。一人の子どもとして、たくさん子どもたちと関わって、子どもたちの実態を知ってほしいと思います。

驚いたことは、実習の最終日に私とあまり話したことがない子が、ずっと私の手を握っていたり、あまり関わらなかった子が図工で作った作品をプレゼントしてくれたことです。そのときはじめて、本当はもっと実習生と話したり遊んだりしたかった子どもが何人かいることを知りました。嬉しかったと同時に、3 週間では子どもたちの見えない部分がまだまだたくさんあることを知りました。もっと幅広く子どもたちと私からどんどん関わることができればと少し後悔しました。

(3) 3 年生の担当になるにあたって事前の準備、心構え、注意点など

指導案を書くとき、ワードを使って書くと思います。ワードが得意ではない方は事前に練習しておくことをお勧めします。私はパソコンが苦手な指導案を書くときにとても時間がかかりました。睡眠時間をできるだけ多く確保するためにも頑張ってください。

他の事前準備は、事前指導で言われたことをしっかり行うことです。

とっても明るくて元気な子どもたちから、たくさんのお話を学んできて下さい。充実した実習が送れますように。

(1) 実習で苦勞したこと、失敗したことは何か、それをどうやって乗り切ったか

・ 休み時間に遊ぼうと誘ってくれたのは嬉しかったが、その誘ってくれる子が毎回特定になってしまい、さらに女の子だ、たのんで自我が強くて、他の子と遊ぶのに苦勞しました。ですが、3週間しかなく普通学級での実習が最初で最後だったため、少し真剣な様子で話しをし、遊ぶ順番を決めました。4年生の女の子は、自分のものにしたいと思う気持ちが強いため、そこを言葉で理解させることで、なんとか乗り切れると思います。

(2) 実習に行って初めて分かったこと、嬉しかった出来事は何か

子どもたちは、授業でも休み時間でも、実習生のことをすごく必要としてくれて、子どもたちのおかげで3週間頑張れたと思います。特に授業では、子どもたちも実習生が授業を上手くできないことは知っているので、とにかく頑張ろうという姿勢を見せれば、たくさん発言してくれたり、協力的になってくれたので、ものすごく安心しました。自分自身が一生懸命頑張れば、子どもたちにも伝わると 생각합니다。

(3) 4 年生の担当になるにあたって事前の準備、心構え、注意点など

4年生は大人なように見えて、実は子どもです。分類は高学年になりますが、正直まだ低学年なんじゃないかと思う子どももたくさんいます。なので、遊ぼう、～しようと言われたら、とにかくたくさん関わると良いと思います。実習中は、授業案作リや日誌など、やる事がたくさんありますが、休み時間はすごく楽しく、又子どもたちは自分たちの何れも楽しいと思います。子どもたちの笑顔を引き出せるように、たくさん関わり、コミュニケーションをとれば、それが授業にもつながると思います。